

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170100960), 法人名 (株式会社 進幸), 事業所名 (グループホーム ピアハウスPOP), 所在地 (札幌市中央区北4条西16丁目1番地3 幌西ビル2階), 自己評価作成日 (平成30年9月6日), 評価結果市町村受理日 (平成30年10月29日)

高齢の介助者と若い介助者が就労しており、介護する人・される人という関係を超えて互いに相手を思いやり暮らしているホームです。

これからは認知症の介護や接遇面の改善を図り、入居者も職員もお互いを尊重し合い共に生きる姿勢を大切にしていきたいと思ひます。施設はデイサービスや共同住宅と隣接しており、常日頃から他事業所のスタッフや利用者との交流があり、自然になじみの関係が出来あがっています。近くに温泉施設がありスタッフとたまに入浴へ出かかっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年10月9日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中央区の7階建てマンションの2階フロアの半分を専有した1ユニットの事業所で、同法人の共同住宅とデイサービスが併設している。1階には高齢者介護、障がい者支援の各事業所、保育園があり、法人理念を共有し、防災や行事交流、職員間サポートなどで連携している。事業所の特筆点として、利用者、職員、障がいの有無の垣根を超え、共に生きる「人」として信頼関係を構築していることである。生活の中で、利用者もできる事を行い、職員も共助の精神で互いに認め合う姿が窺える。ケアサービスは利用者中心に行われ、環境整備を始め、入浴や排泄面はきめ細かく柔軟に対応しており、食事についてもメニューの充実や美味しさを工夫し、一番のご馳走である皆で食べる毎日の和やかな食事を大切にしている。子ども達やボランティアとのふれあいも楽しみのひとつになっている。それらの日常生活を支える為に様々な研修機会を整え、特に管理者を中心としたOJTによる質向上は、事業所全体の意識啓発に繋がっている。今夏、初の夏祭り開催に取り組み、オフィスが多い地域であるが、住民交流の促進に努力しており、地域密着の事業所として今後の活動が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を作成し、フロアに提示して全職員で共有している。	法人全体の理念を事業所理念として共用空間に掲示している。昨年度、理念を再検討し、事業所の基本姿勢を確認している。毎月会議で唱和し、日常ケアに反映されるよう、共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が気軽にホームに来る事ができるよう町内会長との連携をはかり、イベントの案内など配布している。夏には初のふれあいバザーと称し地域との交流を行いました。	事業所初の夏祭りは、町内会の協力を得、回覧板やチラシで住民に知らせ、大勢の人との交流を実現している。子ども達とは七夕や保育園児の来訪で触れ合っており、楽しみの機会を作っている。	地域密着型事業所として、AED活用の案内や、住民相談を受け付けるなど地域との共生に努めているが、今後も交流の推進や相互協力の取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、運営推進会議を通して事業所の活動等について報告している。大学や高校の実習生の受け入れを積極的に受け入れて協力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所の取り組み等について報告し、参加者からの事故防止等についての提案を実践するなど、サービスの向上につなげている。会議の議事録を家族や関係機関に送付しています。	利用者や活動の状況報告をし、事故等は、その経過や改善策も含めて評価を得、開かれた会議運営を行っている。専門家を招いた講話を企画し、地域の知見者としてメンバー増員等も考えており、会議の有効活用に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市グループホーム連絡協議会・区管理連絡会に参加し、積極的に行政情報を活用している。運営推進会議には第一地域包括支援センター職員が参加している。生活保護者が多く入居しているので区の担当者が頻回に訪れている。	行政とは随時対応し、職員来訪時や各種報告書の提出等で、協力関係を築いている。行政主催の各種会合で情報交換を行い、職員研修について区の管理者連絡会と連携し、質向上に共に協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待について外部研修に職員が参加し、研修報告等を行い、職員全員で取り組んでいる。	運営推進会議内で身体拘束廃止等適正化委員会を発足させ、2回目を終了している。身体拘束の弊害、内容の理解は外部研修、その伝達で学び、実践で拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関施錠は夜間のみで、見守りにより外出傾向に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待研修に参加し、研修報告等を行い、職員全員が虐待についての理解を深めることができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者2名が成年後権制度を利用中。後権制度についての理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明し理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された際にはお気づきの点等ないかかかしくし、ご意見・要望をいただいた時には全職員に周知し、運営に反映させるよう努めている。利用者からの要望についても同様に対応している。	課題であった通信は写真入りで発行し、面会時や電話、書類郵送等でも利用者の様子を伝えている。意向・要望は、利用者や家族と関わる場面や運営推進会議で聞き取り、検討して運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議を開催した際に職員の意見を聞き取り反映させている。また、管理者を通じて代表者にも意見を届けている。	管理者は、職員の意見を吸い上げ、ケアの充実や運営面の改善に努めている。多様な研修機会の提供により、職員のスキルアップと積極的な意見表出に繋がっている。個々の力を活かした業務分担やチームケア、休日固定の勤務体制など、働き易い環境構築に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を見極め、強いストレスを感じることはないシフトを作成。職員の休憩室の整備を行った。職員の能力に応じて担当を決め、職場環境の整備をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に施設外の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やスタッフとも同業種企画の勉強会に参加し、情報収集や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	新しく入居者の声に耳を傾け、なじみの関係を築くまで本人の意思にそった介助を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来訪時は、要望等をお聞きし、誠実な対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しく入居された方が入浴を拒否していましたが、介護職全員で話し合い施設に慣れるまで本人が希望する温泉施設に同行するなどして関係を深めてきました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にはホーム中で役割をもってもらい、感謝の気持ちを持って利用者として接するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途切れることのないよう、ご家族にも負担なく来訪していただけるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく生活習慣を変えないよう努めている。なじみの人や場所との関係継続についてはいろいろな事情もあり現在は難しい状況。	友人や退去家族が訪ねて来られ、本人だけでなく、他利用者とも顔馴染みになっている。今までの生活習慣が続けられるよう、遠方親族との定期的な電話支援、通い慣れた温泉施設の入浴など、柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合ったりする場面もみられる。ほとんどの入居者様がフロアに出てきて皆さんで輪を作って過ごされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者様のご家族が現在でもホームを訪れて運営に協力してくれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと向き合う時間をつくり、生活歴や今後の希望について聞き取れるように努めている。コミュニケーションが取れない場合は、生活歴やご家族の意向を踏まえ、本人本位に検討している。	利用者主体の生活になるようにと、ゆっくり接する場面が多く持たれている。共に過ごす中で意向や希望を聞き取り、表情や仕草、生活歴等を通して、意向等の理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的なかかわりの中で、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほぼ全員が昼食後自室で仮眠を取られており、体調や精神的な疲れもなく落ち着いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制としてアセスメント、モニタリングを全職員が行い、介護計画に反映するよう努めている。	毎月、利用者全員のカンファレンスを行い、日々の記録で、介護計画の実践を確認している。3か月毎や状態変化に応じた見直しを行い、本人はどうかの視点を掘り下げて、実践可能な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について記録し、全職員で情報共有している。変化があれば介護計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内に有るデイサービスや保育園などの施設の行事に参加するなど多機能性を活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの訪問があり、お喋りをしたり、行事の飾り付けやおやつ作りなどを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用し、緊急時に相談したり指示を仰いでいる。また、長年通いなれた通院先へ付き添い適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、本人と家族の希望に沿い、馴染みの病院受診は、家族と一緒に職員も同行し、適切に支援している。多くの利用者は訪問診療を利用し、月2回の内科往診、週に1回の訪問看護師、調剤薬局等との連携を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来訪し、体調管理を行っており、受診などについて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院中にも面会し看護師からの情報収集を行っている。また、退院時には本人の状態を確認し、看護添書をいただくなど連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の方針についてはご家族や本人との十分な話し合いを行っていないが、今後は訪問診療との連携を図り、勉強会を行っていく予定である。	重度化や終末期の対応は、本人・家族の意向を聞きながら、契約時に説明している。看取りの指針に基づき、関係者間の連携強化や職員研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練を年に1度は実施している。喉つまりや痰つまりなどの場合の設備を整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は2回火災訓練を実施。地震の災害時には近くにいる職員が駆けつけ又法人全体で支援を行いました。災害設備を常に点検して準備できています。	避難訓練は1階の系列の各事業所と連携し、複合型ビルとして取り組み、6月に実施、次回は地震後の火災想定避難訓練を予定している。避難場所の確認、食料や水、暖房機器を確保している。	胆振東部地震時の対応を検証し、法人と協力しながら、必要備蓄品の準備や地域協力体制の構築を検討しているので、消防署の助言等も得ながら、その取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては信頼関係に係ることとして十分な配慮をもって対応している。	職員は、利用者の気持ちを支援の中心に置いて関わるようにしている。気になる言葉使いは、その場で注意し合い、言い方を替えて伝える工夫を話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が訴えや希望を表すことができるよう聞く姿勢をもって対応して無理な支援はしていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせるよう心がけていて特に決まりごとは作らないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には身だしなみを整えている。ヘアカットは定期的に近くの美容室が訪問しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合わせていて、誕生日や季節行事の際にはメニューを工夫し楽しんでいただいている。決まった人ですが一緒に片づけが来ています。	食事の一連の作業に利用者が参加できる環境を作り、家庭らしい和やかな食事風景になっている。利用者と希望のメニューを相談し、栄養バランスや彩り、品数にも留意し、食欲を支え満足感に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食やおかゆなど一人ひとりの状態に合わせた食事形態で安全にかつ楽しんで食事が出来るように工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕口腔ケアを行っている。自分でできない利用者は職員が介助している。週1回訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1時間半～2時間毎にトイレ誘導を行っている。ほぼ失禁や衣類の汚染はなくなりました。	排泄状況の詳細なデータを基に、個々に合わせた自立支援をしている。きめ細かな対応により、無理なく自然なトイレ排泄に誘導し、失禁や汚染を防ぎ、日中は布下着用など、気持ちよく安心して過ごせるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを表で全員が把握して一人ひとりの行動や食事などからも便秘の症状を察知して都度下剤や水分などの調節を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望は最大限に尊重しながら、週2回の入浴を実施している。	週2回ゆっくりと入浴できるよう、希望の入浴方法で介助している。拒否が強い場合は無理強いないせず、馴染みの温泉施設利用から入浴支援に繋げることもあり、思いに添う柔軟な対応である。浴室の温度調整を工夫し、天然ヒバ風呂の芳香がリラックス効果を生んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後に昼寝の時間を設けている。また、ベットメイクやシーツ交換、寝具の調整等行い、安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルし、全職員が閲覧できるようにしており、処方の変更になった場合は職員に周知し、状態観察をしている。薬局が隣接していて普段から蜜に連絡を取り合っ薬についての相談なども出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を行っており、近くのコンビニへ買い物に行ったり、天候と体調をみて散歩に出かけるなどしている。また、個別に外食に出かけたり、ミニコンサートに出かけたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿う事は出来ないが散歩や買い物に出かけられるよう努めている。	法人車両で、動物園等の外出行事を企画している。ミニ大通りは手近な散策場所であり、外気浴や桜、緑を満喫している。受診後の買い物や、おやつを買いに近隣のコンビニで出掛けている。フロア続きの共同住宅やデイサービスには自由に行き来し、気分転換の機会を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、しまい忘れ等による紛失が懸念されるため本人管理は行っていないがお祭りなどでは本人が買い物できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	さまざまな個人の事情があり、電話や手紙のやり取りの支援はほとんど行っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェック表を作成し環境整備を行っている。ボランティアが季節の飾りつけを行っている。部屋によって室温に差があり、補助暖房で対応している。	対面キッチン、ダイニングとリビングコーナー、和の畳スペースも用意され、広く明るい共用空間になっている。温・湿度等の調整に気配りし、季節の飾り物や、利用者と職員合作の折り紙細工も掲示されている。ピアノは園児の来訪時に活躍し、共用空間は歩行練習に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビング・居室などそれぞれの場所でくつろいでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていたものを持ち込み、使用している。着物などは時々着る機会を設けていて着付けなどを手伝っています。	広さが違う居室が用意され、家具やベッド、布団、日用品などが持ち込まれている。個別の居心地良さを大切に、殺風景な白壁に職員手製のPATCHワークのタペストリーを掛けて、温かな雰囲気を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等設置しているが、個々に合わせたものではないため立ち座りを補助する為にトイレに台を置いて必要に応じて使用して頂いています。		